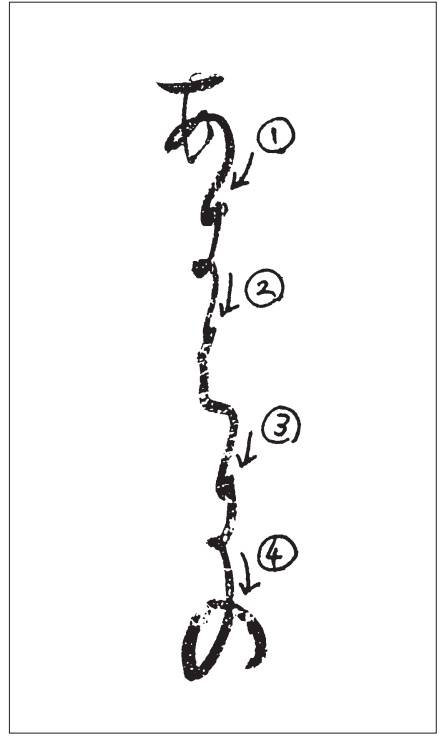


◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

寸松庵色紙



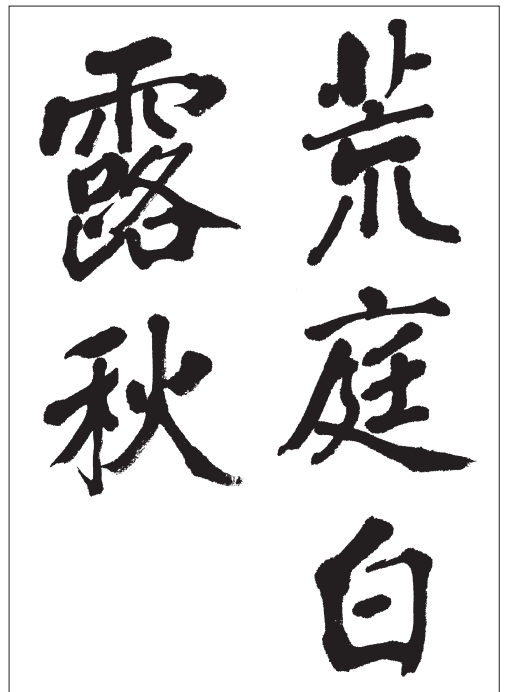
- 1、字句^{あまきはま}||あ^ま支^は者^ま支^まの
- 2、形式||半紙をたてに使い、中央に一行で臨書する。落款は、本文に添う大きさで「〇〇臨」と入れる。
- 3、概観||（歴史）作者は紀貫之であると言われる寸松庵色紙。貫之は平安時代前期の歌人で、古今和歌集の編纂にかかわっています。又、仮名日記文学とも言われる「土佐日記」の著者でもあります。寸松庵色紙は、一六二一年に京都大徳寺竜光院に建てられた茶室「寸松庵」に伝来したことにより、その名が付いています。現在、模写本を含め四十三首が存在し、いずれも古今和歌集の四季の歌が書かれています。
- 4、各字のポイント（ブレイキをかつつ引く連綿線）
 - あ：筆圧をかけながら紙にふれ、ゆっくりと横画を引く。筆を立て、鋒先を利かせてたて画に入り「の」の部分で筆圧をかける。
 - あから支への連綿
 - 「あ」の最終画の右回転(①)では、ブレイキをかける気持ちで連綿線を引き「支」の横画に入る。
 - 支から者への連綿
 - 「支」の結びからの連綿線は「者」に向かうほどにブレイキをかけてゆっくりに引く。(②)
 - 者から支への連綿
 - 「者」の横画は短く。「支」に向かう連綿線はブレイキをかけてゆっくりに引く。(③)
 - 支からのへの連綿
 - 「支」の横画も短く。結びは小さくし、「の」へ向かってブレイキをかけながら筆圧をかけていく。(④)その筆圧のまま「の」を書く。

半 紙 課 題 (予 告)

(十一月二十二日締切)

平岡華雪先生書

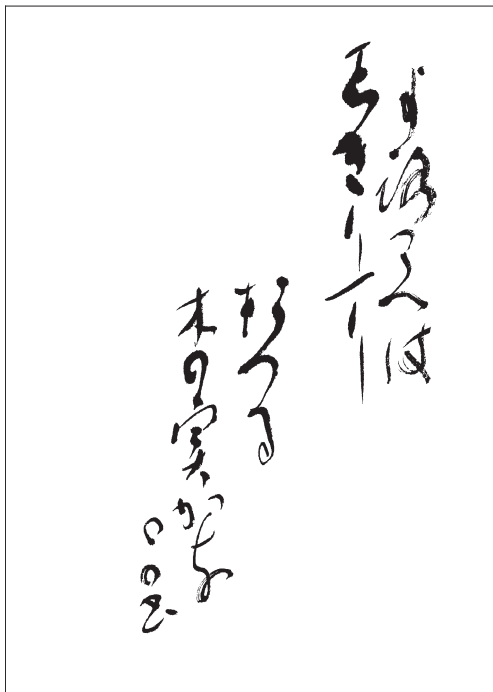
荒庭白露の秋(張説)



訳：荒れた庭に白露深い秋となった。

平岡華雪先生書

よろこばしきりに落つる木の実かな(風生)



一字書（十月二十二日締切）

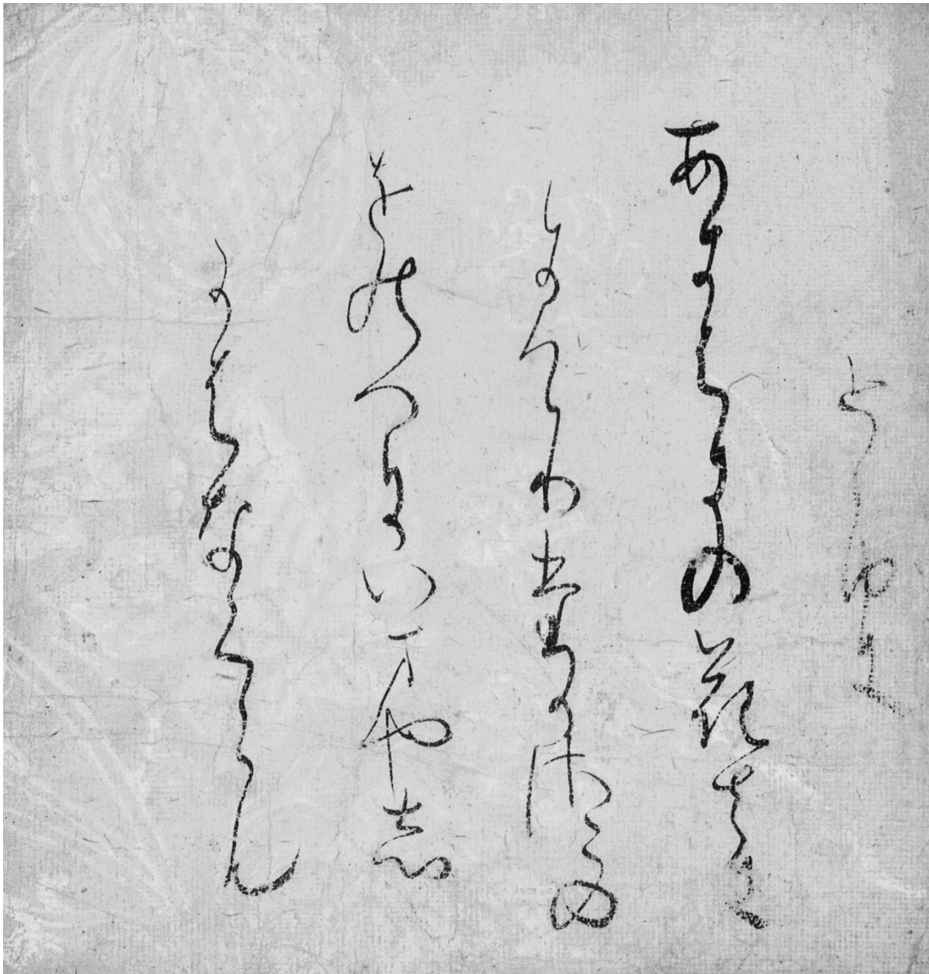
課題

静

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円

新部門も三回目となりました。創造力を働かせて表現を楽しんで下さい。多くの会員のチャレンジを期待しています。

寸松庵色紙



あきはぎ支者支の花さき支介利靈可佐にけりたかさごのを能のへ尔にいま万やし志可者つかは支なくらん

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

五島美術館蔵

A 高橋香樹主幹書

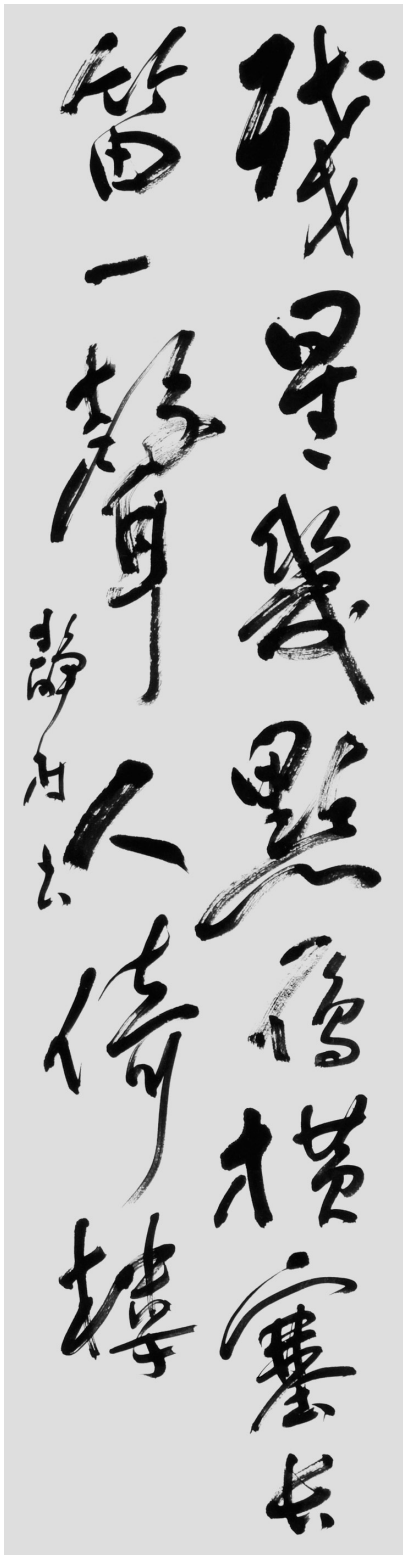
残星幾點雁橫塞 長笛一聲人倚樓 (超跋)



B

鈴木静村書

今回は墨継ぎに迷った。一案は「横と人」で、もう一案は「雁と聲」での墨継ぎ。結果は後者となりました。「雁」は古典では「鴈」が多いが墨継ぎをする為小さく押さえられる「雁」を選びました。構成では、一行目は「幾」と「點」で、二行目は「聲」と「人」で横幅を取り、左右の行が呼応するようにしました。



大小の表出、特に「大」について、運筆過程で、画数、点画の組み合わせ、草書体の導入等によって、大小を打ち出すように集中徹底していくことです。残 幾 點 塞 聲 倚の文字の個性(偏と旁、斜画が主画、連火、冠と縦画の傾き、同じ縦長形の中にも末画に相違等)を見取って下さい。

訳：夜明けの星かげまばらの空に、雁が飛んで関所を通る。ちょうどその時、高樓に登ってだれかが笛を吹くのが聞こえた。

予告 (十一月二十二日締切)

東風踏青龍

閑倚案頭眠

主人供筆硯

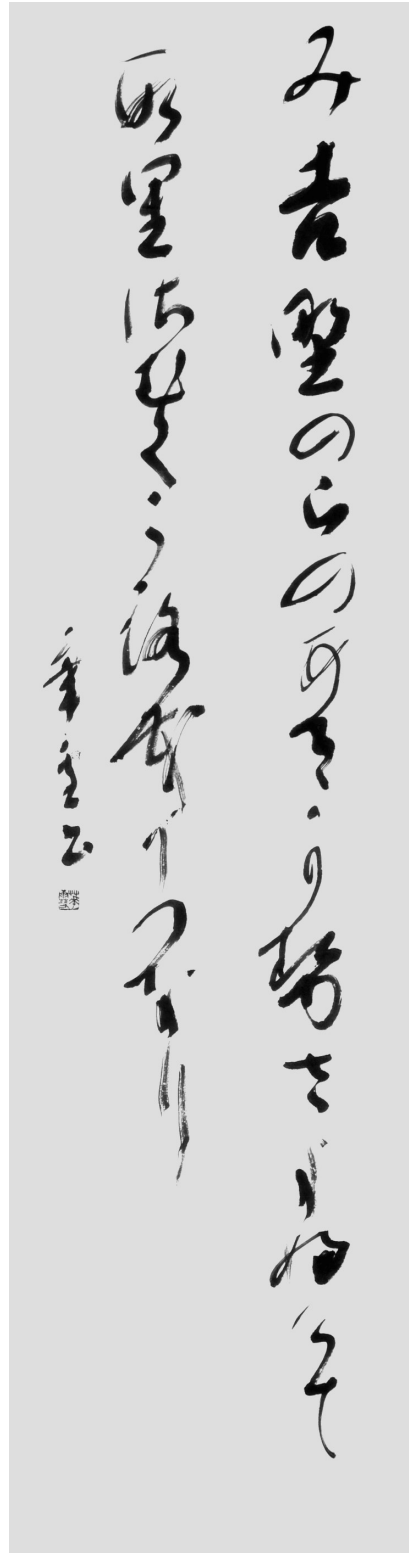
為題醉青蓮 (良寛)

◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A
平岡華雪先生書

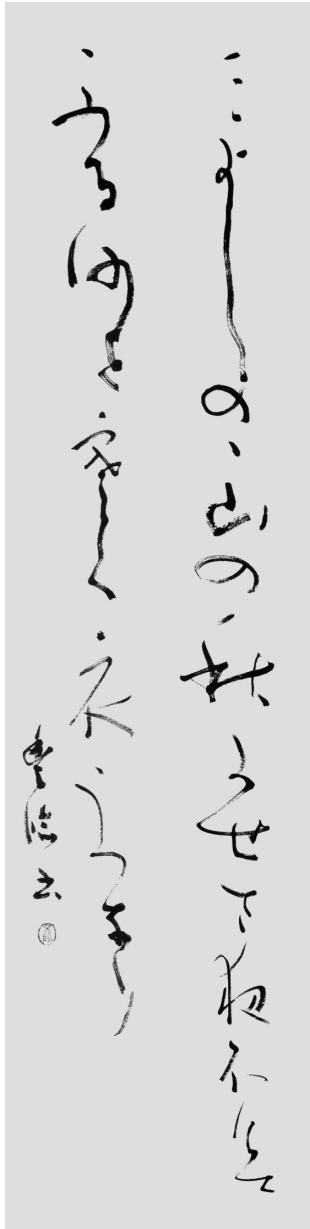
み吉野の山の秋風さよふけてふるさと寒く衣うつなり (新古今和歌集 藤原雅経)
み吉野の山のあき可勢さよ婦介て故里佐む久こ路茂うつなり



B

吉原豊臨先生書

みよしの、山の秋可せさ夜不介てふるさと寒く衣うつなり



学び方

華雪先生のお手本では、「み吉野」が放ち書きで、強く表現されていますが、私のように平仮名で連綿を使うことも可能です。今回、華雪先生の漢字の部分の仮名に、仮名の部分を漢字で書くことによって、いろいろな書き方ができることを示してみました。①み吉野と三よし②あきと秋③さよとさ夜④故里とふるさと⑤佐むくと寒く⑥こ路茂と衣と全体で六箇所あります。書き易い字、難しい字、得手、不得手とあると思いますが、漢字・仮名(変体仮名も含む)織りませて練習してください。ひとつの書き方に固執せず変化をつけて欲しいと思います。その上で、墨色の変化、字の大小、潤濁等に挑戦、すばらしい作品を完成されることを願っています。

歌と作者について

本歌は、「み吉野の山の白雪積るらしふるさと寒くなりまさるなり」(古今・冬 坂上是則)

藤原雅紀は、従三位右兵衛督。祖父頼輔に歌と鞠を学び、更に俊成について歌人となり、後鳥羽院歌壇の代表歌人となる。家を飛鳥井と号し、代々蹴鞠と歌の家として宮廷に仕えるようになる。『新古今集』の選者の一人。歌集に明日香井和歌集がある。

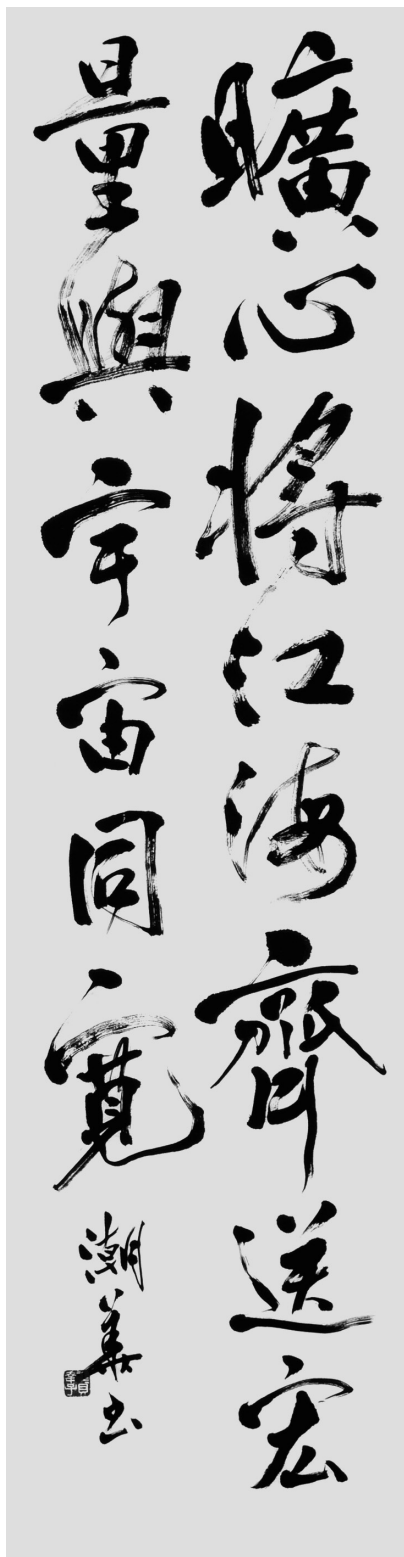
予告 (十一月二十二日締切)

日暮るればあふ人もなしまさき散る峰の嵐のおとばかりして (新古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

水 貝 潮 華 先 生 書

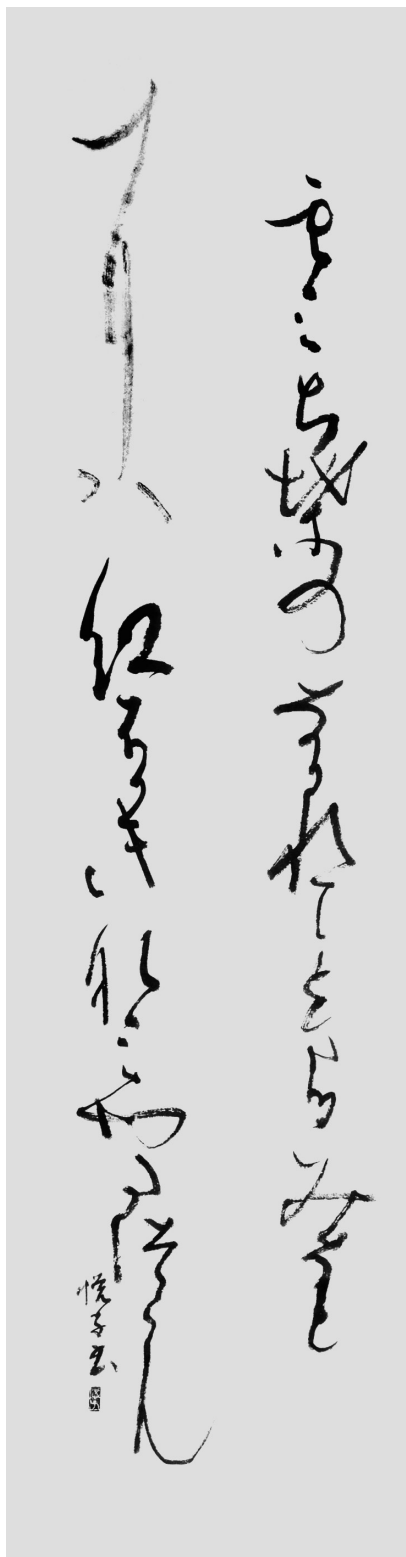
曠心將江海齊送 宏量與宇宙同寬 (李嶠)
こうしんこうかい ちゅう ほん びと おく こうりょううちゅう おな ゆる
 曠心江海を將て齊しく送り、宏量宇宙と同じく寛うず。



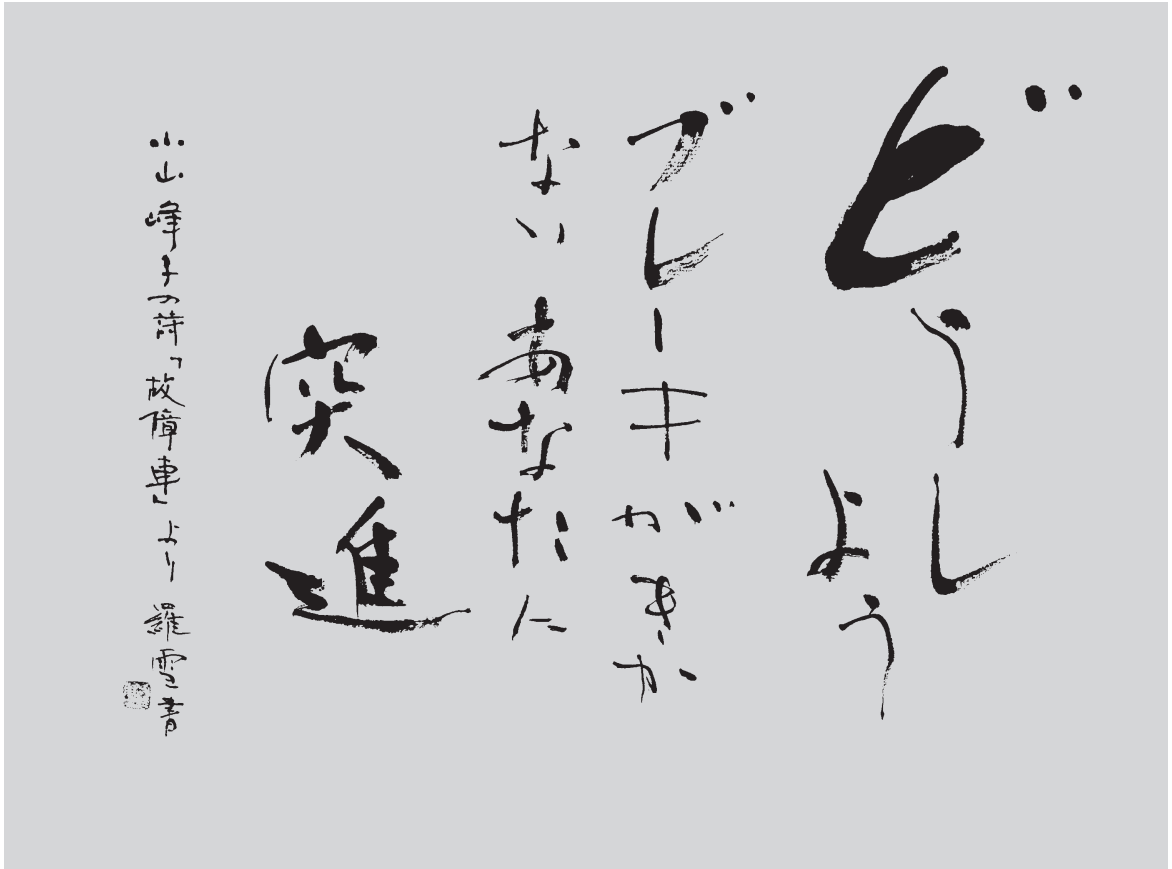
訳：心は極めて広く大川や大海のように何事も齊しくはこび、度量もまた広く宇宙のように寛大にして物事を容れねばならぬ。

長 野 悦 子 先 生 書

もみぢ葉のながれてとまるみなとには紅深き浪やたつらむ (古今和歌集 素性)
もみぢ ながか なたまる みなと には 紅 深き 浪 や たつらむ (古今和歌集 素性)
 毛三ち葉の奈可れてと万るみ奈と耳八紅不可き那三や多徒ら无



- ◆注 意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)



杉浦羅雪先生書

どうしよう
ブレーキがきかない
あなたに
「故障車」
こやま峰子
突進

新書(漢字・仮名まじり)は、読めて親しめる書でなければなりません。そこで、最初の出発点は可読性ということです。そこに今まで鍛えてきた自分の技量と芸術性を付与し「読める」という原点を忘れずに長いスパンをかけて芸術性の高い調和体にしていくことだと思えます。半紙横で感動を豊かに表現してみてください。

小山峰子(こやま峰子)
一九三六年、東京生まれ。
日本児童文芸家協会常任理事、詩人、童話作家、エッセイストとして活躍中。

第一三回赤い靴児童文化賞
第二八回日本童謡賞特別賞
第四回フランス・エビアン市文化賞受賞
第二六回巖谷小波文芸賞
第二八回日本児童文芸協会賞受賞
など数々受賞

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

林泉遠心を會す

訳：山林泉石を楽しんでこそ幽遠なる心をあい会することが出来る。

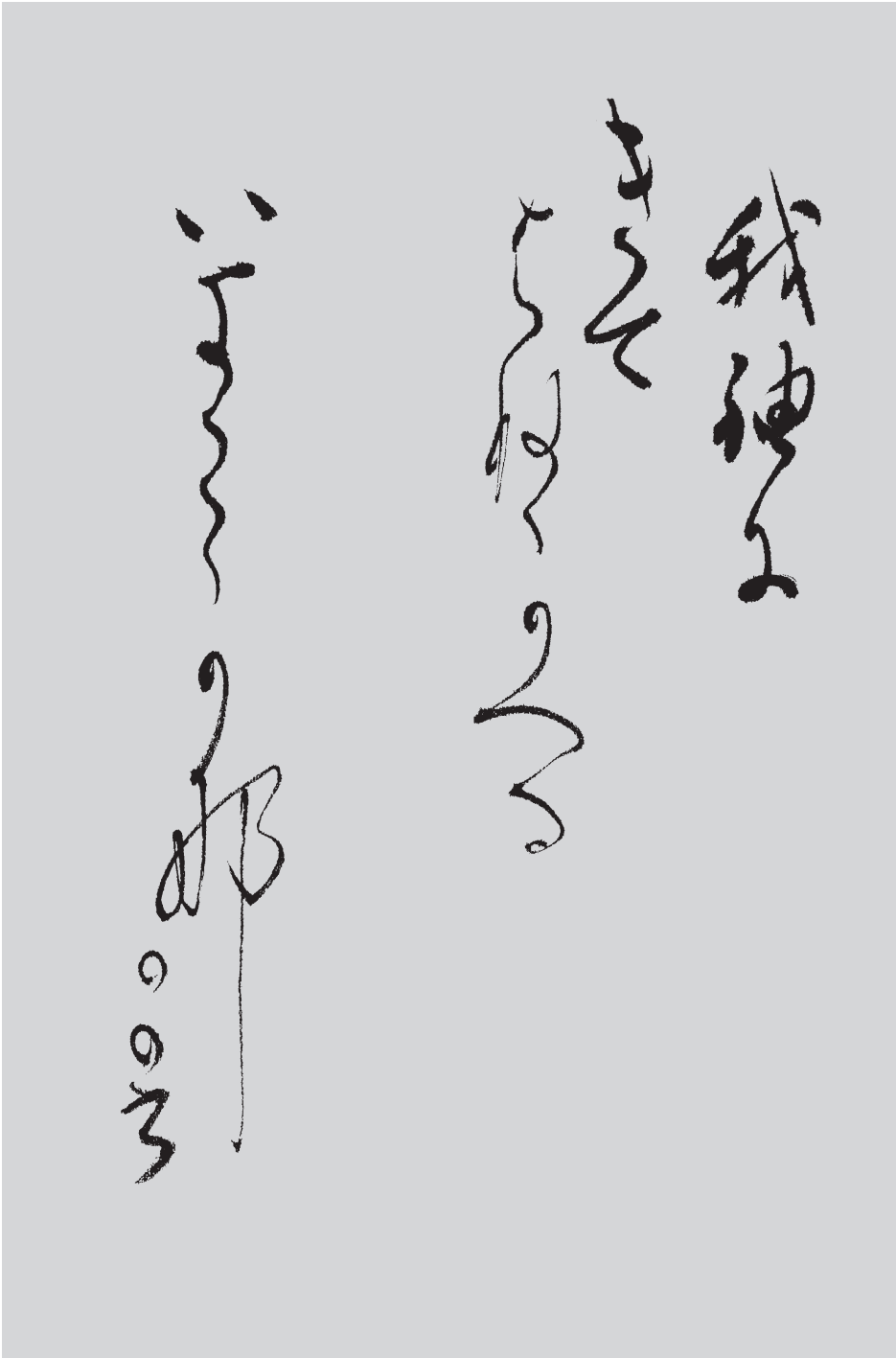
〈字配りのむずかしさ〉

特に右行の字配り、これらと対応して左行の「遠」この之繞も堂々と暢はし
たい。右行三文字の右払いは、ハミ出さずに、しかものびのびと書きたい。皆
さん、腕の見せどころです。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。



平岡華雪先生書

我袖に来てはね返るいななかなな(子規)
我袖にきて者ねか可なへるないな奈なこな可な那

〈リズムを大切に〉
運筆、筆圧の変化は呼吸とかかわっています。「者ね可へる」「いなこ可那」
は何度も単体練習をして、リズムを体得することが大切です。気脈の一貫を心がけて多習を。

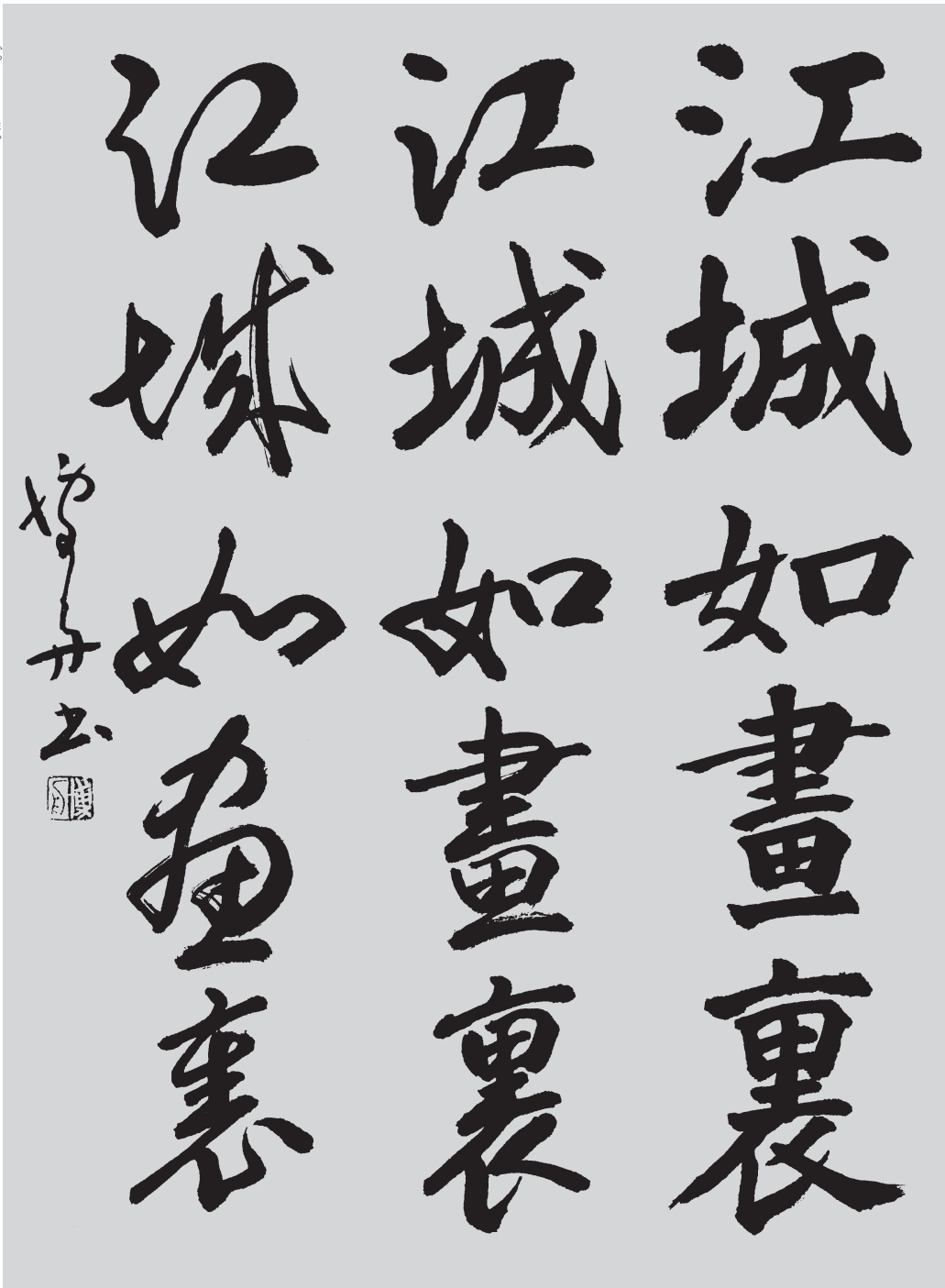
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

楷、行、草、三 体 参 考

北 沢 博 舟 先 生 書

江城如畫裏（李白）
江城画裏の如く



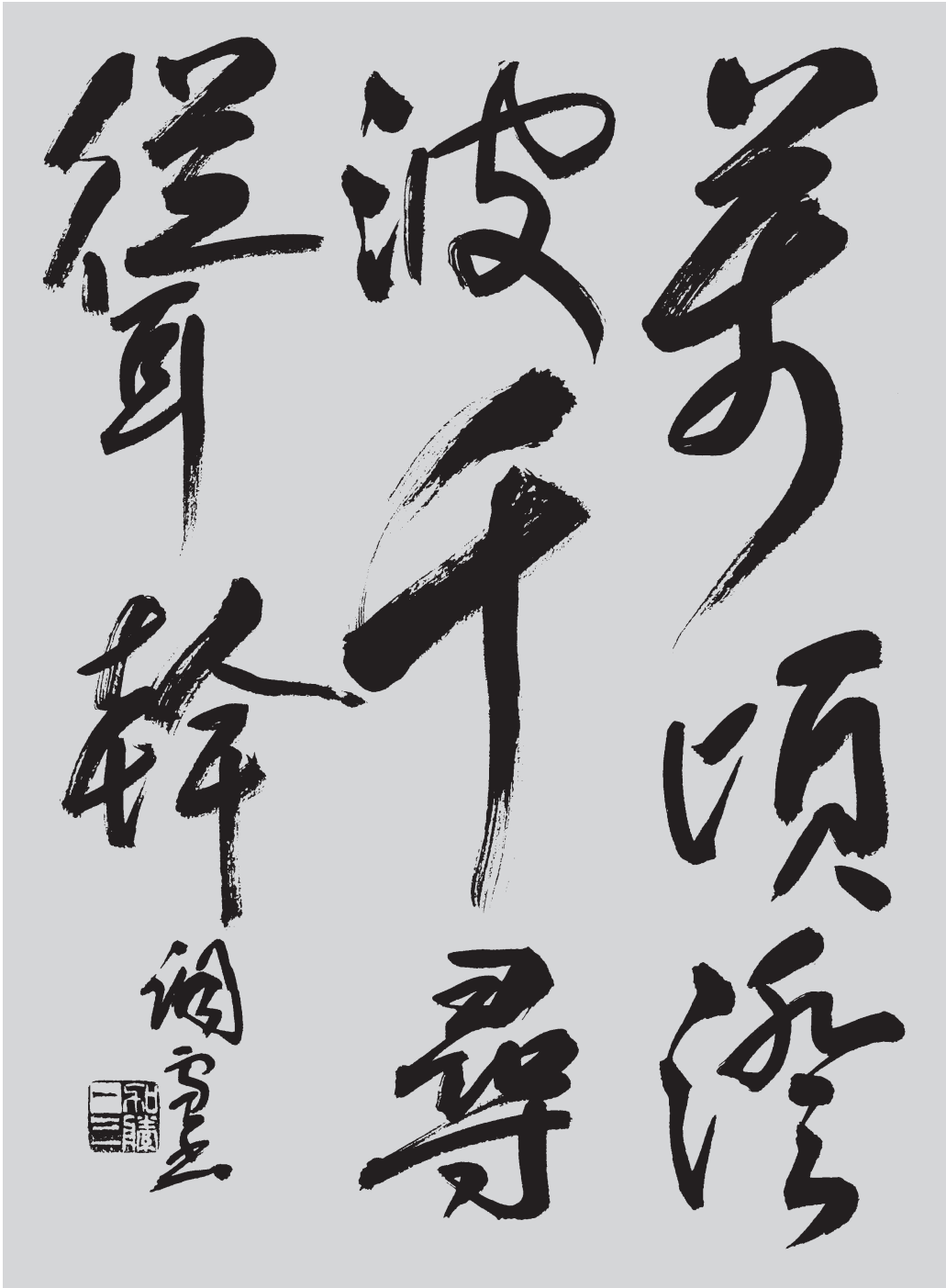
訳：江ぞいの城は、画の中の景色のように美しく、

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随意部参考

加藤洞雪先生書

萬頃澄波 千尋簞幹 (昭明太子)
万頃の澄波、千尋の簞幹。



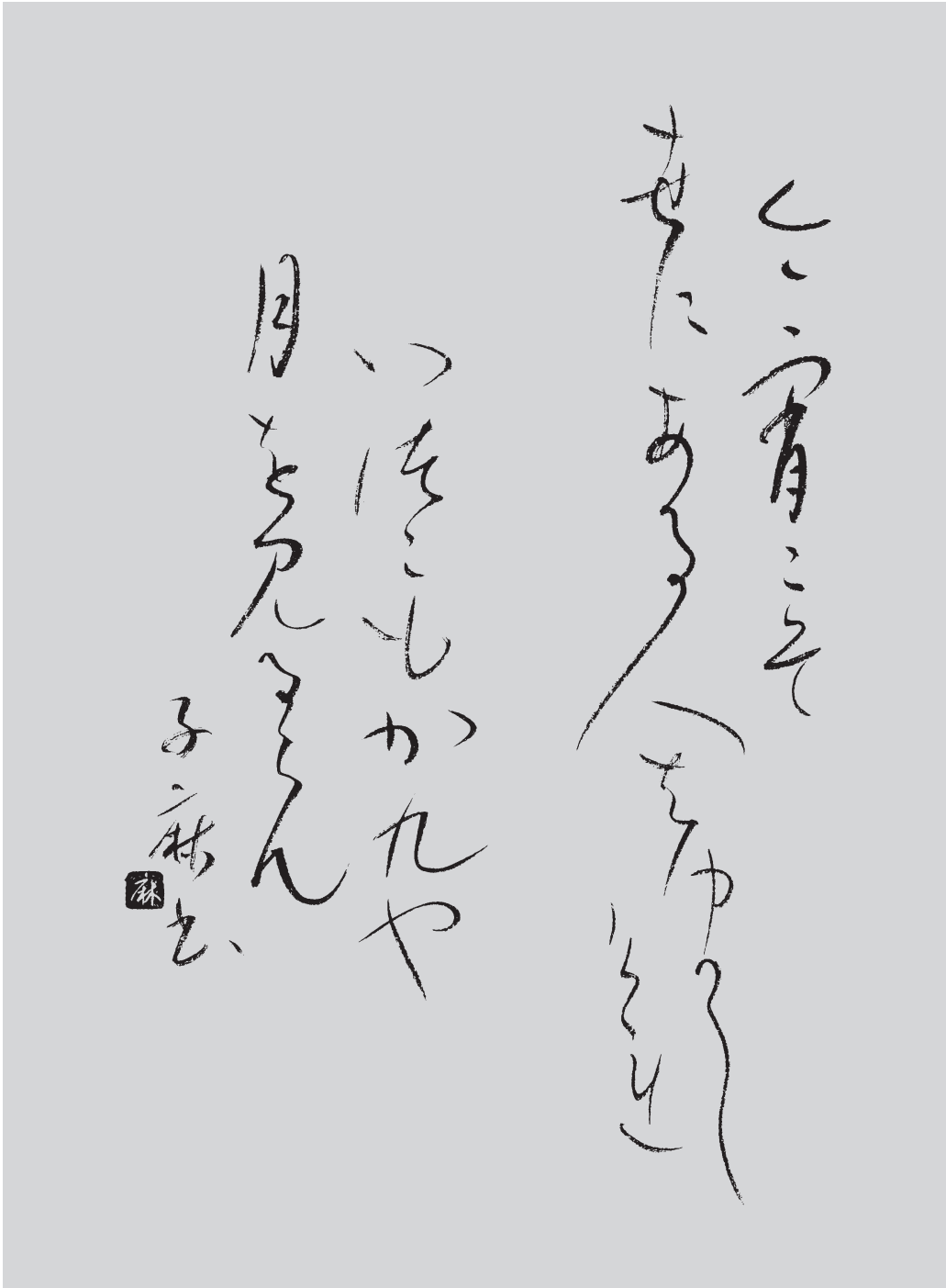
訳：広く澄みわたった波に、高くそびえた木のみぎ。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

林
子
麻
先
生
書

今宵こそ世にある人はゆかしけれいづこもかくや月を見るらん
（後拾遺和歌集 赤染衛門）
今宵こそ世にある人者ゆかし介連い徒こもか九や月を見るらん



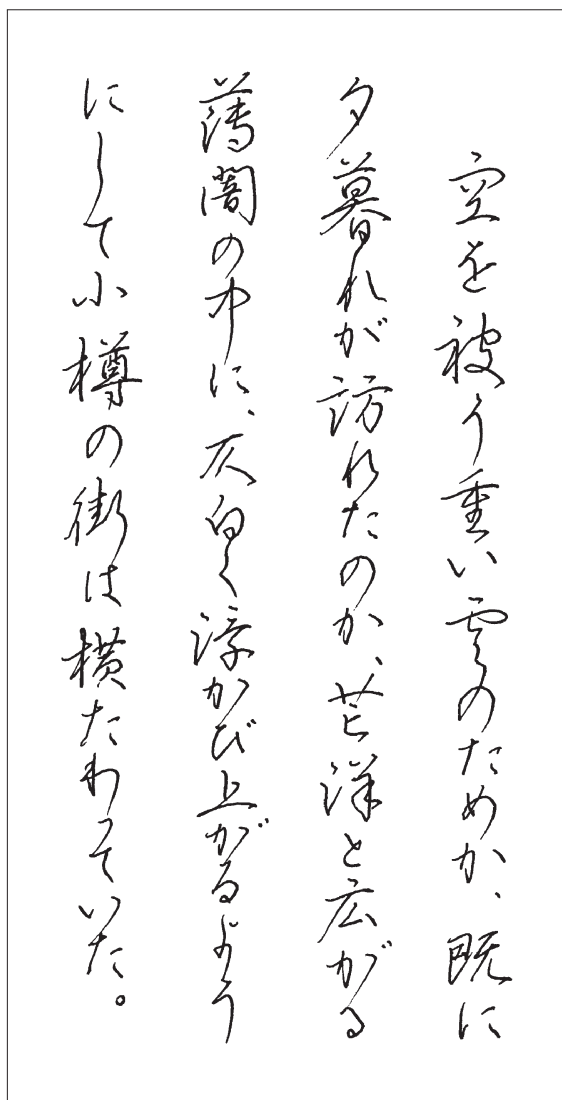
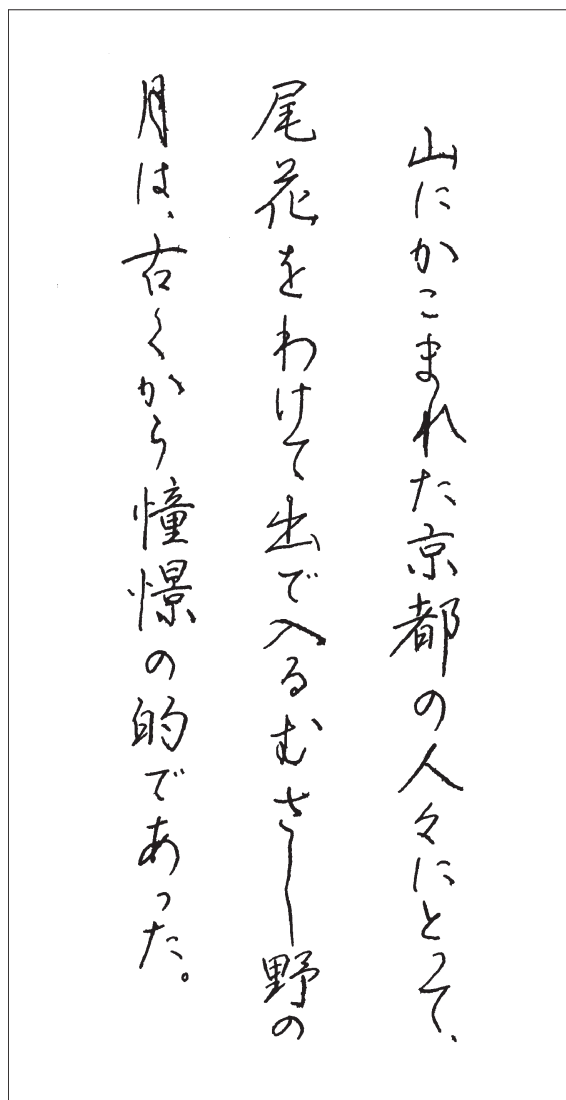
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

空を被う重い雲のためか、既に夕暮れが訪れたのか、芒洋と広がる薄闇の中に、灰白く浮かび上がるようにして小樽の街は横たわっていた。

「夢時計」 黒井千次

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

山にかこまれた京都の人々にとりて、尾花をわけて出で入るむさし野の月は、古くから憧憬の的であった。

「美の遍歴」 白洲正子